

GCOE 国際会議出席報告書（外国旅費用） T1216

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	のだ かずと	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	野田 数人	学振PD	
Tel,Fax e-mail	075-753-3748 noda@scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Single-particle excitation spectrum and correlation effects in a bose-fermi mixture		
著者名	Kazuto Noda, Robert Peters, and Norio Kawakami		
会議名称 ・開催期間	The 23rd International Conference on Atomic Physics ICAP 2012 自 2012 年 7 月 22 日 ~ 至 2012 年 7 月 27 日		
開催地 (国、市)	フランス、パレゾー		
出張期間	自 2012 年 7 月 18 日 ~ 至 2012 年 7 月 29 日		
国別参加者数	総数 800 人程度。(国別情報は分らず)		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>国際会議 The 23rd International Conference on Atomic Physics (ICAP 2012) にて、近年、冷却原子を用いた実験で高い制御性のもと作成可能となったボースフェルミ混合系における相関効果と一粒子励起スペクトルについて理論的に解析した結果についてポスター発表を行った。</p> <p>ICAP は、冷却原子系、レーザー、量子情報などを専門とする研究者が多く出席し、参加人数も 800 人ほどの大きな会議である。</p> <p>自身のポスター発表に関しては、様々な方に来ていただき、議論ができ大変ありがたかった。特に、冷却原子系の相関効果について研究をされている N T T の稲葉さんと理研の山本さんには、結果の解釈や量子多体系における一般的な相関効果について議論していただき、大変実りの多いものになった。ケンブリッジ大の M. Koschorreck さんと冷却原子系のポーラロンの実験について議論し、自身の解析結果と実験の対応について議論させていただいた。</p> <p>また、他の口頭発表やポスター発表も興味深いものが多く、この分野の盛り上がりを感じられ勉強になった。この経験を生かしてさらに研究を進めていきたい。</p> <p>また、国際会議の前に共同研究者であるゲッチンゲン大の Thomas Pruschke 教授のグループを訪問し、ボースフェルミ混合系の相関効果についてのセミナーを行った。セミナー中にたくさんの質問・コメントをいただき大変刺激を受けた。また、グループの学生である Oliver Bodensiek さんの近藤格子の超伝導状態についての論文公表前の最新の結果について議論させていただくなど、実りの多い滞在だった。</p>			